

■ご挨拶

理事就任のご挨拶

日本風力発電協会 理事 柴田 英治
株式会社日本製鋼所 風力室 営業グループマネージャー



はじめに

このたび、当協会の理事を務めさせて頂くこととなりました日本製鋼所の柴田でございます。2013年度の1年間、当協会の理事を務めさせて頂きましたので今回が2回目の理事拝命となります。

先日5月30日に行われました定時社員総会、成果発表会、その後の懇親会に出席させて頂きましたが、前回理事であった2013年の懇親会では200名程度の出席であったのに対し、今回は300名を超える大盛況であり、会場内を移動するのも一苦労すると同時にJWPAの発展と共に国内風力発電業界の注目度が急速に増大しているものと体感した次第です。

今回2年ぶりの再登板となりますが、国内の風力業界伸張のために皆様と共に努力して参りますので、宜しくお願い致します。

当社風力事業の歩み

当社に於いては1990年代後半の鉄鋼不況の中で新規事業を探索する中、それまで製造販売していた大型鍛造プレスや鍛造マニプレータ等の産業機械に関する設計技術を基にし、2000年より海外風力発電機用タワーを自社内で製造開始し、その後国内に120本以上納入することが出来ました。またその頃より海外メーカの風力発電機を輸入販売し、且つEPCへも取組むことで風力の技術導入を図って参りました。その後、世界の風力発電事業が拡大していく状況を踏まえ、2005年頃より34mブレードを自社内で製造し、ほぼ同時期に2MW風車の設計製造を開始し、現在までに130基以上の納入実績があります。2013年には2.7MW風車初号機を開発製造し、世界の潮流である大型化へも対応して参りました。まだまだ前途多難な事業ではありますが、これまでの数々の経験を生かした事業展開を図り、日本に於ける風力業界の拡大、産業振興、雇用拡大に貢献出来るよう努力していきたいと考えております。

当協会への期待

風力業界を取り巻く環境は依然厳しく、国内の設備容量拡大のためには、環境アセスメントの要件緩和などの各種関連法の規制改革、系統連系を容易に且つ連系可能容量を拡大させるための連系制約の緩和、固定価格買取制度条件の維持による事業開発意欲の推進、国内の合意形成を得る等、風力業界の伸張のために当協会の位置付けは大変重要であると言えます。

加えて、公衆波及事故を未然に防止するための取組みも非常に重要であり、来年度より施行される定期安全管理審査制度が適正な形で実施される必要があります。

前述しました通り、当協会が急速に拡大していることは全会員の風力業界への期待の表れであると共に、社会的な地位が高まったことでもあり、且つ社会的な義務や責任も高まっていることと思います。

日本国内の風力発電業界が今後健全に発展するために微力ながら貢献出来ればと思っておりますので、宜しくお願い致します。



島根県江津市 2MW×11基